

三宅島火山の9-20世紀の噴火史 Eruption history of Miyakejima Volcano, in the 9-20th century

及川 輝樹^{1*}, 下司 信夫¹
Teruki Oikawa^{1*}, Nobuo Geshi¹

¹産総研・地質情報

¹Geological Survey of Japan/ AIST

三宅島火山の八丁平カルデラ埋積後の9世紀以降の噴火史を、テフラ層序、¹⁴C年代測定、野外地質調査を組み合わせで明らかにした。対象とした期間には、三宅島全島に、風早テフラ（6世紀）、9世紀のAD838の神津島-天上山テフラ、9世紀の雄山溶岩・雄山スコリア、AD886の新島向山テフラ、村営牧場テフラ（14-15世紀）などが全島に分布しており、それらが良い鍵層となって精緻なテフラ層序を編むことに成功した。従来の層序は、特に16世紀以前については、9世紀の向山及び天上山テフラの上位に位置するテフラについて、ただ「噴火す」とのみ記されている記録と対比していた。今回、すべてのテフラに対して¹⁴C年代測定を行うことによって、従来の古記録とテフラの対比は刷新された。多くの歴史記録との対比は誤りであった。9世紀以降は、100年に1~2回の頻度で噴火していたが、19-20世紀は100年に3回の頻度で噴火していた。その他明らかになったことは、9世紀の雄山溶岩・スコリアの噴火以降に200年ほど噴火のない時期があったこと、従来12-14世紀に想定されていた噴火休止期は無かったことなどである。また、9世紀以降すべての期間を通して、山頂噴火と伴に規模の大きい山腹噴火をたびたび繰り返してきたことも明らかになった。

キーワード: 歴史噴火, ¹⁴C年代測定, 火山層序, テフラ層序学, 玄武岩質火山, 三宅島火山

Keywords: historical eruption, radiocarbon dating, volcanic stratigraphy, tephrochronology, basaltic volcano, Miyakejima Volcano